

ひがしの子

令和5年3月3日
岐阜市立岐阜東幼稚園
園長 藤井 佐由美

たいよう組の子どもたちにとっては、残り11日となりました。たいよう組の子どもたち同様に、なつめ組やこあら組の子どもたちも、様々な活動を通して、一つ一つ成長が見られます。「大きくなること」を嬉しく思う様子が、随所に見られます。一日一日を大切に過ごしたいと思います。

先日、保護者からとても楽しいお話を伺いました。Aさんがお家で、こんな風にお話をしてくれたそうです。「昨日はね、ぞうさんクラブが来たんだよ。交通安全のお話だったの。」「今度はね、らいおんクラブが来るんだって。プレゼント持ってきてくれるんだって。」…なるほど、ぞうさんクラブとらいおんクラブ（岐阜中央ライオンズクラブのこと）がまるで対の関係のように表現されているではないですか。子どもたちって、こんな風に大人の話をもじって聞いて、自分の中に落とし込んでいくんだなあ…と思い、愛おしくてたまらなくなりました。しかも、ちゃんと、「水川教育長さんも来るんだって。」と話の全容が分かるように伝えてくれたそうですよ。なんだか心がほっこりしました。ありがとう子どもたち！！



この頃は、なつめ組がたいよう組に挑戦状を申し立てて、ドッジボール対決をよくやっています。たいよう組の子どもたちは、これまでもドッジボールを繰り返し楽しみ、長森北保育所や加納幼稚園の子どもたち、保護者などと対戦をしてきました。その中で勝つこともあれば負けることもある、負けると悔しいけれど、対戦することは面白さもあるという実感がもてるようになってきました。なつめ組の子どもたちは、以前は勝負事で負けるとすぐに嫌になってしまったり、気持ちが落ち込んでしまったりして長続きすることは難しい姿がありました。しかし、この頃は当たってしまって外野に行くことになってもちょうと、ボールが来るのを待ったり、自分でボー

ルを追いかけたり、なかなか当てて内野に戻ることができなくても諦めずに最後までやり通す姿が見られるようになってきたのです。そうやって長く続けていると、なつめ組がたいよう組を当てる場面も出てきます。なつめ組の子どもは、ボールのキャッチ&リリースのスピードが意外と速く、「ボールを投げること」「当たらないように逃げること」「ボールを追いかけること」「誰かを当てること」など、面白いと思える要素がいくつも分かるようになり、大人を当てた時などは、この上ない笑顔で鼻高々とした態度になっています。そんな時には、乾布摩擦の声をいつもに増して大きく、足を一步前に踏み出しながらゴシゴシ擦る様子が、なんとも可愛らしいです。負けてしまっても、「なつめのチームに入ってくれない？」と大人を呼び集めて、再び対戦しようとしています。たいよう組の子どもたちは、たいよう組となつめ組をシャッフルしてチームを作ってもいいと思っているようですが、先日、なつめ組がたいよう組に勝利したことにより、しばらくは、なつめ組対たいよう組の対戦が続くのかもかもしれません。3月の残りわずかなときではありますが、こうやって年長児に憧れの気持ちや対等な気持ちをもちながら、やがて次は「自分たちがたいよう組になれるんだ。」という期待感を表しているなつめ組の子どもたちにもエールを送りたいと思います。

こあら組の子どもたちは、石鯨や園庭の草花を活用してジュース作りを楽しんだり、乗り物を選んでごっこ遊びを展開したりしています。乗り物ごっこでは、駐車場に見立てた場所にスクーターをバックで切り返しながらかしこを石をお金に見立ててカプセルトイを買おうとする姿が見られたり、三輪車の後ろの足をかける場所に石（お金）を置いて落ちないように慎重に運転したり、プールの周りやテラスの直線コースを楽しんだりしています。途中の遊園地では、一緒にブランコに乗ったり、私に「先生、乗っていいよ。」と言ってくれ後ろから押してくれたりします。「もっと押してもいい？」と尋ねてくれるなど、これまでの大人との関わりの中で学んできた相手の気持ちを図ろうとする言葉かけに温かさを感じます。自分の思いを通そうとする姿もまだまだありますが、少しずつ相手の気持ちに気付いていけるよう援助していきたいと思います。



《3月の保育について》

【3歳児】

- 年中児になる期待をもち、いろいろなことをやってみようとする。
- 先生や友達と一緒に、いろいろな表現遊びを楽しむ。

【4歳児】

- 友達の中で自分を伸び伸びと表現し、共に過ごす楽しさを感じる。
- 年長組になる生活を意識し、進級を楽しみにする。

【5歳児】

- 1年生になる期待と喜びをもって友達と一緒に遊んだり、共にいることを楽しんだりする。
- 自分なりの願いをもち、それを達成するために遊びや生活の中に様々な環境を取り入れ、遊びを創り出す喜びを味わう。

